

○学会長挨拶・講演（石塚悟史・高知大学）高知大学の知財活動について

※高知大学次世代地域創造センター（センター長・石塚悟史教授）

<https://www.kochi-u.ac.jp/cersi/organization.html>

○講演 2（伊藤慎一副会長・秋田大学「知的財産専門委員として考える地域からの提案」
～秋田大学の知財活動と連動する知財教育の展開

※未来研究統括機構イノベーションオフィス教授（消費者行動 知的財産）伊藤慎一

<https://www.akita-u.ac.jp/crc/outline/organization.html>

○知的財産専門委員等の経験・研修を受け考える」フロア他からコメント・意見

4. 会場配布資料
- 1 専門委員（知的財産権訴訟）案内
 - 2 専門委員の手引き
 - 3 知的財産高等裁判所パンフレット（以上、知財高裁提供資料）

5. オーガナイザーによるセッションまとめ

・イノベーション創出に関わる産学連携・異種異質連携において、知的財産権は事業推進や成果の刈り取り・確定において大きな核となる。しかしその知的財産権の把握や扱いは必ずしも単純ではなく、戦略や経験、技術・ノウハウが必要である。筆者も所属大学では研究部署から知財本部を兼任し、大学知財の立場から研究成果の特許出願・成果移転、商標意匠等に関連する事例研究や出願・権利化、国立機関への創作成果移転等多くの事業・研究に関わったが、1大学での経験はやはり狭いものと感じていた。しかし2003年から知的財産専門委員を1期から9期務め多様な裁判事例に関わったことは、知的財産権の把握・理解や扱いに関する知識経験の豊かな基盤となった。知財専門委員制度に早くから注目して来た所以である。此の研究会では多様な知的財産権の世界で多様異質な立場が出会う場としての此の制度の意味に注目し、学・産・官等の立場は異なっても知的財産権の理解・活用・創出を推進する立場では一致し、より良い環境形成と事業発展を求める有志の集まりとして活動を続けている。幸い専門委員制度や知財高裁のビジネスコート化に関心を寄せる熱心な会員が多く、既に研究会会員から専門委員に任官された方も多し。今後は研究面の充実のみならず、一方では専門委員制度に参加することを意識した実務的な「研修会」実施や、ファミリーコートのような幅広い活動基盤を持つビジネスコート化への多様な活動協力等も、産学官の枠を超えて行えるような態勢を構築し、学会としての社会貢献を更に発展させたい。

当メールニュースではイベントのお知らせや公募情報等、
産学連携に関する情報をお流しいたします。
会員の皆様への情報の配信をご希望の方は、
産学連携学会事務局（j-sangaku@j-sip.org）までご連絡ください。